

日南市埋蔵文化財調査報告書 第4集

平成6年度

日南市内遺跡発掘調査概報

- ・狐塚古墳
- ・影平遺跡
- ・飫肥城下町遺跡

1995.3

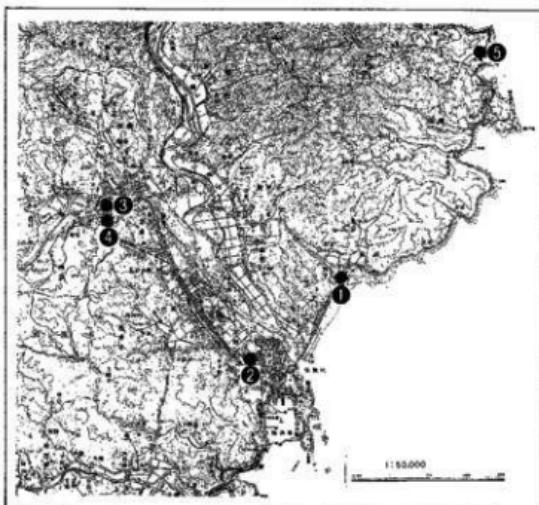
宮崎県日南市教育委員会

日南市埋蔵文化財調査報告書 第4集

平成6年度

日南市内遺跡発掘調査概報

- 狐塚古墳
- 影平遺跡
- (飫肥城下町遺跡) 松田家石垣
- (飫肥城下町遺跡) 鈴木病院
- 和郷牧場開発予定地



- 1. 狐塚古墳
- 2. 影平遺跡
- 3. 飫肥城下町遺跡
- 4. 飫肥城下町遺跡
- 5. 和郷牧場開発予定地

1995. 3

日南市教育委員会

序

この報告書には、日南市教育委員会が平成6年度に実施した5件の埋蔵文化財の発掘調査の概要を掲載しております。

さて、近年の全国的な発掘調査件数の増加は、目を見張るものがあります。日南市は、国選定重要伝統的建造物群保存地区としての飫肥をはじめ、深い信仰を集めている鶴戸神宮など歴史的遺産が多い地域であります。しかしながら、埋蔵文化財についての調査は十分とはいえない状況が続いている状況です。

こういった状況の中、平成6年度については、5年度からの継続調査である「狐塚古墳」の確認調査を初め、他に開発に伴う試掘調査を4件行なうことができました。

本市教育委員会では、今回の調査により確認された埋蔵文化財はもちろんのこと、数多く存在するであろう未確認の埋蔵文化財が各種開発により不用意に破壊されることのないよう、開発側との十分な協議をすすめて、埋蔵文化財の保護に資するよう努力していくたいと思います。

最後になりましたが、調査にあたりご指導いただいた宮崎県教育委員会を初め、調査にご協力いただいた調査補助員、地元関係者の方に厚くお札を申し上げます。また、狐塚古墳の調査に至っては、ご多忙の中数回に渡り現場にてご指導、ご助言下さいました宮崎大学助教授柳沢一男氏に厚くお札を申し上げます。

平成7年3月

日南市教育長 野邊行俊

例　　言

1. 本書は、平成6年度日南市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の概要である。
2. 掲載した調査地は、日南市大字風田所在の狐塚古墳、日南市大字影平所在の影平遺跡、日南市大字楠原所在の飫肥城下町遺跡（2地点）、日南市大字宮浦所在の和郷牧場の5ヶ所である。
3. 調査の体制

調査主体　日南市教育委員会

教　育　長　野　邊　行　俊

社会教育課長　岩　切　秀　明

係　　長　岡　本　武　憲

庶務担当　主　事　田　中　さゆり

　　タ　　長　友　恵　子

調査指導　宮崎大学　助教授　柳　沢　一　男（狐塚古墳）

調査担当　係　長　岡　本　武　憲

　　主　事　的　場　丈　明

調査補助　宮崎大学　学　生　林　田　和　人（狐塚古墳）

　　鎌　田　留次郎

　　福　田　福　一　他

4. 現地調査は岡本と的場が行った。
5. 狐塚古墳について、実測・トレースは的場と林田が行った。
6. 本書の編集執筆は岡本と的場が行った。
7. 狐塚古墳のレベルについては、仮ベンチマークからのマイナス高で示した。その他については、絶対高にて示した。

本文目次

1. 狐塚古墳	1
位置と環境	3
調査に至る経緯	3
調査の結果	3
まとめ	5
2. 影平遺跡	16
位置と環境	19
調査に至る経緯	19
調査の結果	19
3. 餘肥城下町遺跡	23
位置と環境	26
調査に至る経緯	26
調査の結果	26
4. 和郷牧場開発予定地	28
位置と環境	31
調査に至る経緯	31
調査の結果	31

挿図目次

第1図 狐塚古墳位置図	2
第2図 狐塚古墳横穴式石室実測図	8 ~ 9
第3図 狐塚古墳遺物出土実測図	10 ~ 11
第4図 狐塚古墳出土ガラス小玉、切子玉等出土分布図	10 ~ 11
第5図 狐塚古墳出土遺物実測図(1)	12
第6図 狐塚古墳出土遺物実測図(2)	13
第7図 影平遺跡位置図	17
第8図 影平遺跡トレンチ位置図	18
第9図 影平遺跡トレンチ土層断面図	20
第10図 影平遺跡トレンチ土層断面図	21
第11図 餘肥城下町遺跡位置図	23
第12図 餘肥城下町遺跡位置図 松田家(石垣・石段整備地)	24
第13図 餘肥城下町遺跡位置図 鈴木病院(駐車場整備地)	25
第14図 和郷牧場開発予定地位置図	29
第15図 和郷牧場開発予定地トレンチ位置図	30
第16図 和郷牧場開発予定地トレンチ土層断面図	32

図版目次

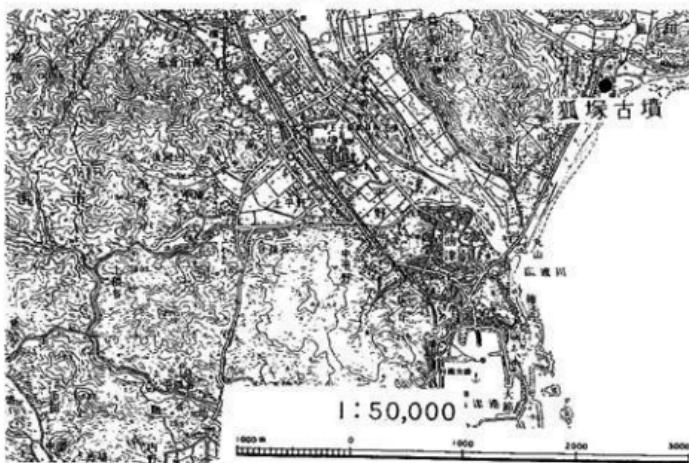
図版1 狐塚古墳全景	1
図版2 狐塚古墳出土遺物	14
図版3 狐塚古墳出土遺物	15
図版4 影平遺跡全景	16
図版5 影平遺跡土層断面	22
図版6 餘肥城下町遺跡全景	23
図版7 松田家(石垣・石段整備地)、鈴木病院(駐車場整備地)	27
図版8 和郷牧場開発予定地全景	28
図版9 和郷牧場開発予定地土層断面	33

狐 塚 古 墳

狐塚古墳全景



狐塚古墳位置図



第1図

[位置と環境]

狐塚古墳は、宮崎県日南市大字風田字元弓場3649番地2の国立療養所日南病院の敷地内に存在する。

県内では、横穴式石室を有する古墳は、はっきり確認されているもので11基あるがその数は少ない。こういった中、狐塚古墳は古墳時代終末期の県内最大規模の石室をもった古墳である。

当古墳は、風田海岸の北端に近い風田川河口右岸の砂丘上に位置する。

立地場所は、砂丘の最高所からやや内陸側の標高約9mの地点である。海岸線からの距離は約180mを測る。現状では単独で存在する。

又、東北東の方向へ約1.2kmの海岸に面した丘陵上に県指定史跡の「東郷(村)古墳」が立地する。

[調査に至る経緯]

狐塚古墳の存在は古くから知られており、平部崎南により調査され、「日向地誌」にその記録を見る事ができる。

昭和12年1月2日には、約1.2km離れた「東郷(村)古墳」と併わせて各々が県指定史跡となっている。しかし、昭和37年1月30日に、国立療養所日南病院誘致に際してその指定を解除されている。その後、原状をとどめていたが、昭和52年の施設建設により狭道部分の大半が消失してしまった。

近年、国立療養所日南病院の統廃合の問題がおこっている。当市教育委員会としては、かつて県指定史跡であった当該古墳について、その詳細を把握し史跡として整備していくための調査を実施することにした。

[調査の結果]

1. 調査の概要

(1) 期間 (2月16日着手～現在)

①平成元年 墳丘実測

②表土剥ぎ、落葉除去等

2月16日～2月17日

③埋土掘下

2月18日～3月31日

④転石除去

5月6日～5月10日

⑤埋土掘下

5月11日～6月10日

⑥床面検出

6月13日～6月18日

⑦石室実測

6月20日～11月10日

2. 調査の方法

発掘調査は、雜木や樹根、落葉等を除去した後に、埋土中に微細なガラス小玉が含まれることが判明したため、石室内を50cm×50cmのグリッドに区切って、各々のグリッドを5cmずつ下げていく作業を繰り返した。そして、各グリッド毎の各レベル毎に出された廃土については、その全てを1mm×1mmのフルイにかけて、ガラスの小玉等の検出に努めた。

3. 石室内の調査

調査前の状況は、盗掘等により天井石が失われ横穴式石室の壁面上部が露出していた。石室内は埋土でほぼ埋没していた。天井石は、崩落もしくは移動しており、現状では一枚も残っていないかった。また、石室最上段に近い石積についても、築造時の高さはとどめていなかった。

羨道部は、昭和52年の病棟建設によって破壊され、現状では約全体の3分の1程度を残すのみである。

玄室の法量は、奥行5.60m、横幅2.7m、残存高2.20mを測る。

又、羨道部は、残存長2.60m、横幅1.60m、残存高1.60mを測る。

玄室床面は、10cm～20cm程の大きさの礫を敷き詰めていたものと考えられるが、現状においては、その床面の80～90%の製塙遺構や落石による擾乱等によって破壊されていた。破壊を免れた部分には、須恵器、馬具等の副葬品が原位置で出土した。

羨道部分の床面については、ほぼ原状をとどめている。床面には礫ではなく追葬のおりの棺台とみられる4個の配石および副葬品の須恵器等が原位置を保って出土した。

石室床面20cm～30cm程高い位置で、布目压痕土器（製塙土器）が非常に多量に出土し、又玄室奥壁右側で炉跡と思われる焼けた跡のある集石遺構とそれに伴う炉跡が検出された。

4. 出土遺物

出土遺物は、大きく古墳時代の副葬品と平安時代の布目压痕土器（製塙土器）からなる。古墳時代の副葬品としての遺物は、下記のとおりである。

記

須恵器杯	1.4点 (完成品、ほぼ完成品含む)
須恵器蓋坏	8点 (完成品、ほぼ完成品含む)
須恵器高坏	1点 (完成品、ほぼ完成品含む)
須恵器ハソウ	2点 (完成品、ほぼ完成品含む)
須恵器横瓶	1点 (口縁部分)
青銅製椀	2点 (完成品)
青銅製鉢	3点 (完成品)
耳環	3点 (完成品)
馬具関係鉄製品	5点
刀剣関係飾り等	6点 (鞘、つば、飾り部分等)
鉄鐵	3点
刀剣刀片	6点
勾玉	3点 (水晶製1点、その他2点)
切子玉	1.2点 (全て水晶製)
ガラス小玉	2.3.5点 (碧色、紺色、橙色、黄色等)
管玉	3点
青銅製品金箔片	20点 (装飾品の一部と考えられる)

須恵器の年代は、7世紀の第2四半世紀を中心とした時期である。

平安時代の遺物としての布目压痕土器(製塙土器)片は、一部磨耗の著しい物もあり、正確には数えることはできないが、約3,000点ほどにのぼる。

その他、江戸時代の遺物として、寛永通宝が4点と陶磁器片等も数点確認された。

[まとめ]

1. 古墳時代について

狐塚古墳は、横穴式石室を主体とする日向で最大の終末期古墳である。

羨道部に追葬があることや耳環が3点出土したことから7世紀のはじめ頃に築造されたこの古墳には、7世紀中ごろまでに2~3人が葬られたようである。

玄室の大きさは西都の「鬼の窟古墳」や「千畳古墳」(いずれも国指定特別史跡)の石室よりも大きく現在判明している横穴式石室の中では県内最大のものとなる。

出土した副葬品は、盗掘や破壊を受けていたにも関わらず、多種多様で日向の古墳時代を考える上で貴重な資料といえよう。とりわけ青銅製鉢(3点)や青銅製椀(2点)

の出土は、注目される。

このように定型化した終末期の古墳としては、日本列島の南限に位置することや副葬品が畿内色を滞いでいることから、律令国家成立前後の南九州の様相を知る上で興味深い。

2. 狐塚古墳出土の須恵器について

- ① 6世紀末のたちあがりをもつ蓋杯（第5図1～6）と宝珠形のつまみを持ち、蓋にかえりのつく蓋杯（第5図7～18、第6図19～21）のタイプが出土した。
 - ② 前者の杯身は径13cm前後、高さ約3.8cmを計る。たちあがりは内傾して非常に低い。底部外面はヘラ切り後、未調整である。蓋の天井部も同じくヘラ切り後、未調整であり、田辺編年のTK217の古段階、飛鳥・藤原京編年の飛鳥II、中村編年のII型式IV型式段階に相当すると考えられる。
 - ③ 後者の蓋は径10cm前後、高さ約3cmを計る。天井部は約4/5を回転ヘラケズリして、中央に宝珠形のツマミをつける。内面には内傾した短いかえりをつける。かえりの先端は、口縁端と同じ長さでおさまる。杯身は径9cm前後、高さ約3.5cmを計る。口縁端は直線的に立ち上がり、底部は平底だが、中央部がやや凹む。底部外面はヘラ切り後、未調整である。
- 田辺編年ではTK217の新段階、飛鳥・藤原京編年では飛鳥III、中村編年のIII型式II段階に相当すると考えられる。
- ④ 前者の蓋杯は主に玄室内から出土しており、後の蓋杯は主に羨道からの出土である。したがって、前者は狐塚古墳築造時の副葬品であり、後者は羨道部における追葬時の副葬品であると判断される。ただし、玄室の遺物は、平安時代の製塙遺構や明治時代以降の盗掘によってかなり移動しているため、玄室内に複数の型式の須恵器が存在した可能性もある。
 - ⑤ 狐塚古墳より出土した須恵器は石室の築造技術や型式と同じく、畿内色が強い。詳細は胎土分析等の手法による産地同定を待たねばならないが、陶邑TG68号窯等の製品である可能性がある。
 - ⑥ 現時点での年代観による須恵器の蓋杯からみた狐塚古墳の築造年代は7世紀の第I四半世紀の末から第II四半世紀にかけての時期、追葬は7世紀の第II四半世紀の末から第III四半世紀にかけての時期と考えられる。

3. 平安時代について

これまで九州内はもちろんのこと宮崎県内においても一般に製塙土器とも呼ばれる

布目压痕土器の出土例は多数あった。福岡県「海の中道遺跡」では、製塩遺構が、確認されているが、県内ではこれまで製塩遺構の確認は、なされていなかった。

今回の狐塚古墳の調査においては、石室内の転用という形での製塩遺構を検出することができた。これは県内で初めての発見である。

製塩土器の出土状態は、羨道部分に限っては、天井石と思われる転石の上部より多数出土し、また焼けた砂や炭化物も同レベルで検出できた。玄室部分に至っては、天井石や玄室横の石積と思われる転石を除去した後に、およそ石室床面から高さで20cm～30cm位のレベルから多量に出土した。

又、製塩土器が多数出土する同レベルの玄室奥壁右寄りで、直径1m、深さが石室床面より約60cmの炉跡を検出した。

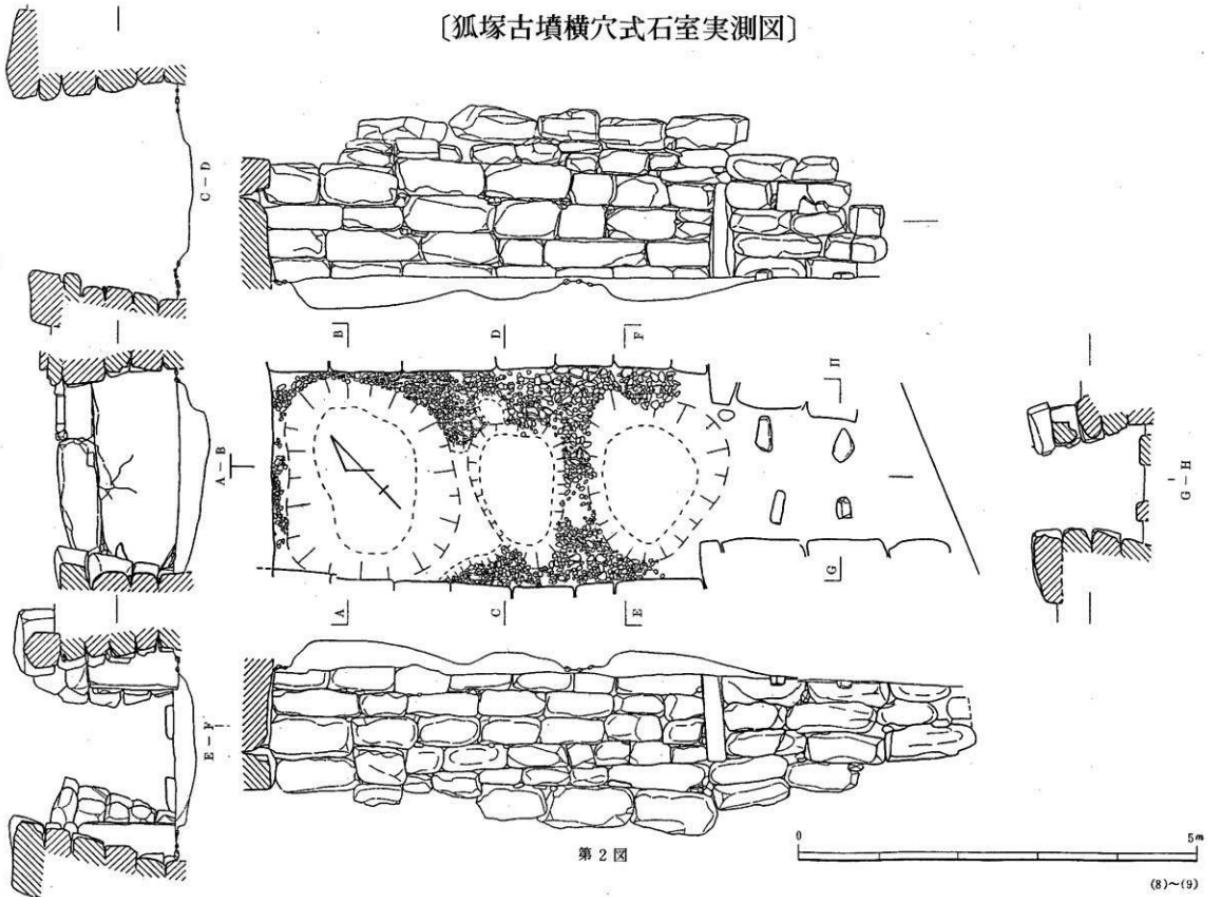
この炉跡には集石が認められ、これらの石の大部分は火を受けて焼けていた。また、炉跡中の埋土からは、製塩土器片や焼けた砂、炭化物等を多量に検出した。

以上のことから推定すると、製塩を行っていた平安時代当時は、羨道部分では、すでに天井石のすべてが崩落しており、玄室部分では一部の天井石が崩落していたと考えられる。

(参考文献)

- 平部崎南「日向地誌」日向地誌刊行会 昭和4年
岡本武憲「日南市遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ」 平成元年
日南市教育委員会「日南市埋蔵文化財調査報告書 第1集」 平成2年
県史編纂室「考古資料紹介(三)記録にみえる考古資料狐塚古墳」「県史だより」14号 平成3年
県史編纂室「宮崎県考古 資料編 考古2」 平成5年
(1) 田辺昭三「須恵器大成」昭和54年 角川書店
(2) 西弘海「7世紀の土器の時期区分と型式変化」「飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅱ」昭和53年 奈良国立文化財研究所
(3) 中村浩「陶邑Ⅲ」昭和54年 大阪府教育委員会
(4) 中村浩「陶邑Ⅱ」昭和52年 大阪府教育委員会

[狐塚古墳横穴式石室実測図]

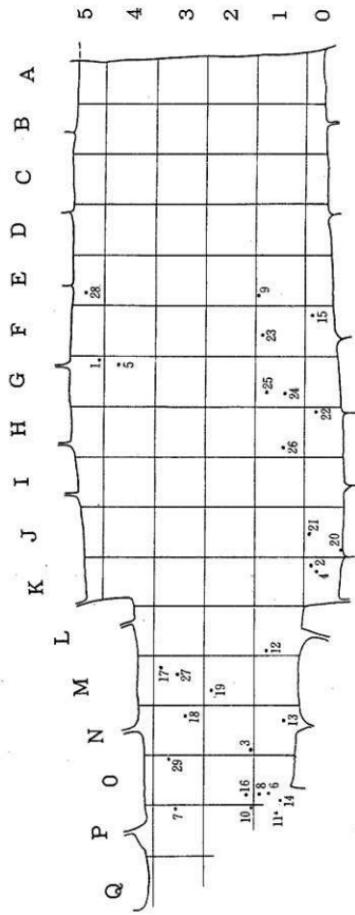


第2図

(8)~(9)

【狐塚古墳】

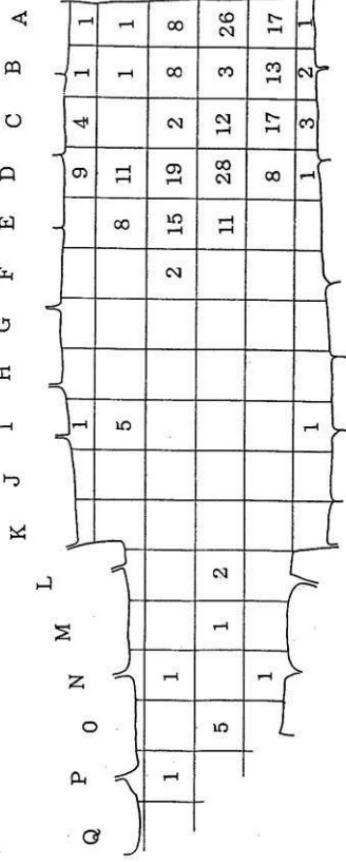
(遺物出土状況)



第3図

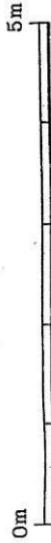
【狐塚古墳】

(ガラス小玉、切子玉等平面分布図)

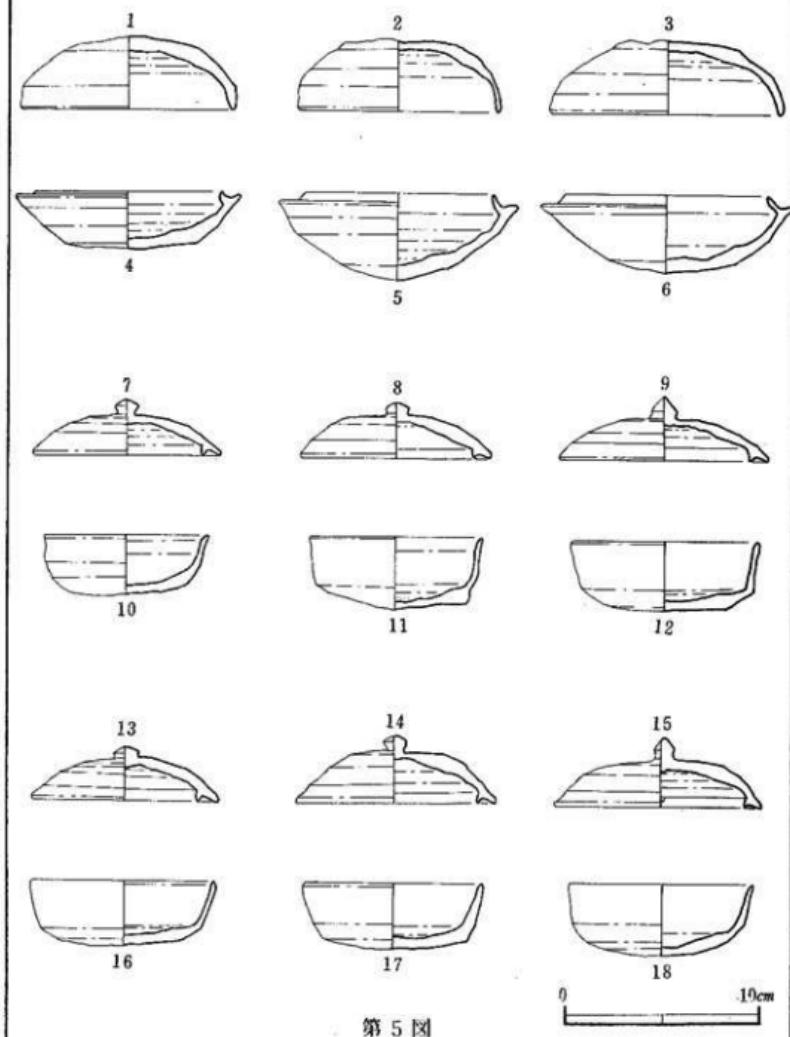


第4図

(10)~(11)

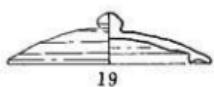


狐塚古墳出土遺物実測図 (1)

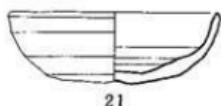


第5図

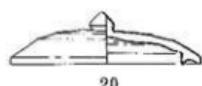
狐塚古墳出土遺物実測図(2)



19



21



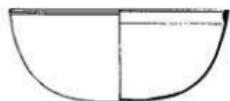
20



26



25



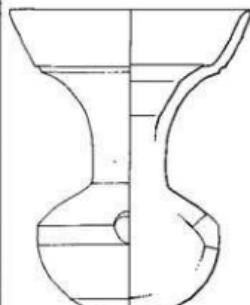
22



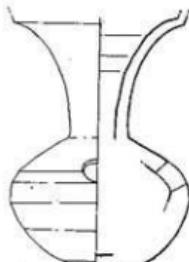
23



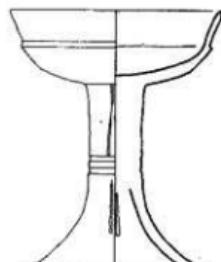
24



27



28



0 29 10cm

第6図

狐塚古墳出土遺物

1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



狐塚古墳出土遺物



19



21



20



24



22



25



23



26



27



28



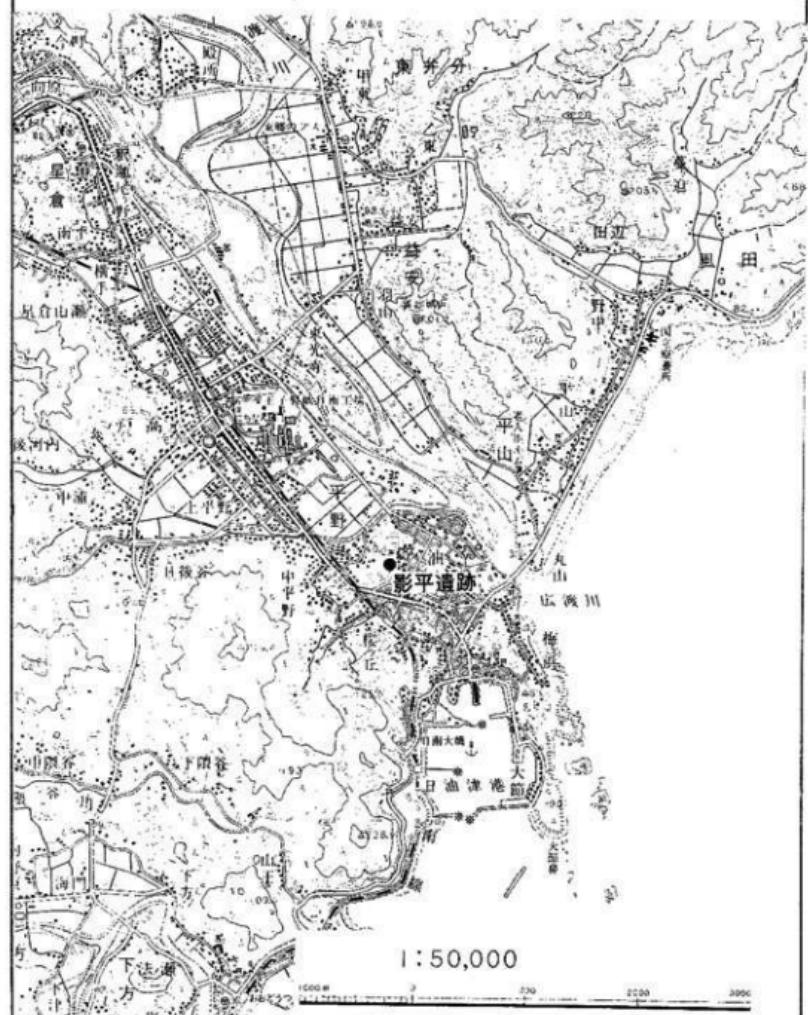
29

影 平 遺 跡

影平遺跡全景

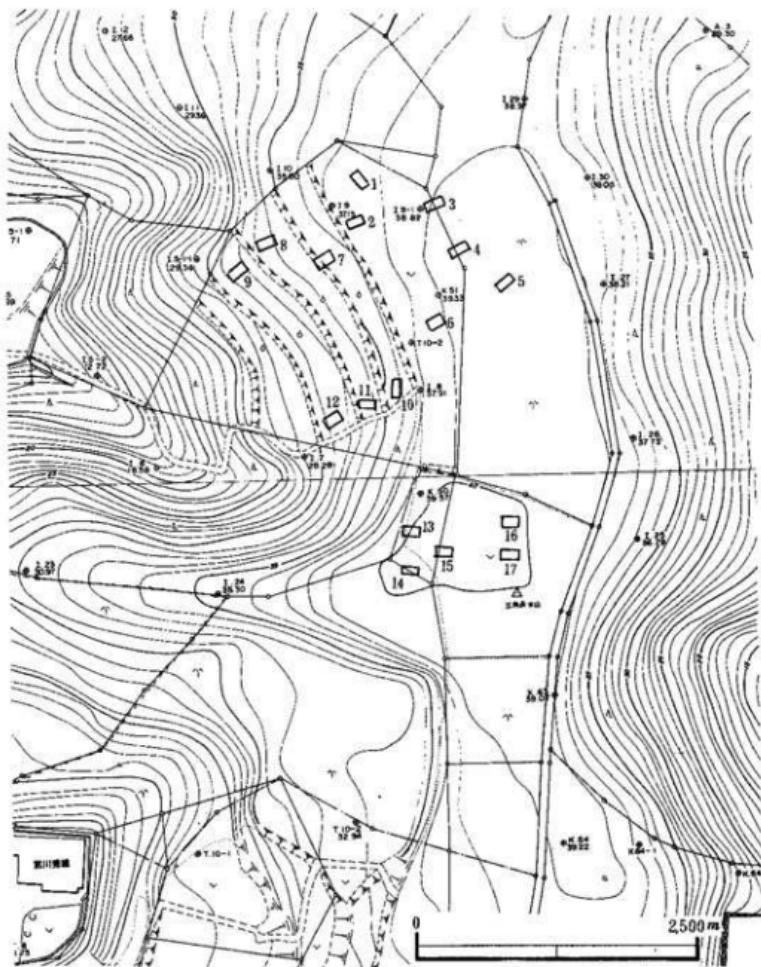


影平遺跡位置図



第7図

影平遺跡トレンチ位置図



第8図

[位置と環境]

影平遺跡は、日南市木山2丁目7598番地に所在する、妻手川南側に広がる丘陵地である。妻手川は、広波川河口付近で、合流し日向灘に注いでいる。同丘陵地からは、日向灘を遠望することができる。

[調査の経緯]

今回の調査は、県立日南病院建設地に隣接する公共施設用地開発に伴う確認調査である。開発予定地域は、周知の埋蔵文化財包蔵地を含むため、埋蔵文化財の保護のために遺跡の範囲確定のための調査を行った。

対象とした地域は、都市計画道路路線区域で妻手川南側の丘陵地である。同丘陵地には、永正八年に創建されたとされる「平野神社」が位置しており、地元では「八幡さま」と親しまれ信仰の対象となっている。

対象地は、現在に至るまで畠地として利用されていた部分と以前は果樹園として利用されていたが、数年前からは休耕地となっており一面、雑木や竹、雑草などに覆われていた部分からなる。調査は、畠地の方から $1.5m \times 3m$ のトレンチを3ヶ所開けていた。次いで休耕地の調査に入っては、一面が掘削ができる状態ではなかったので、まず対象地の雑木や竹、雑草を除去する作業から進めていた。この作業に約一週間から十日間ほどを要した。ようやく調査ができるようになってからこの休耕地が5段の段々畠になっていることが判明したので、各段々畠毎にその端々に $1.5m \times 3m$ のトレンチを開けていた。

[調査の結果]

今回の調査では、合計17ヶ所のトレンチを開けていたが、その内11ヶ所で遺物が出土した。また、その内の1ヶ所では土坑が確認できた。

畠地の方の3ヶ所では、トレンチ・ナンバー15番から弥生土器の完形品とほぼ同位置同レベルで磨製石鎌が出土した。

休耕地の方では、段々畠の最上段のトレンチ・ナンバー5番と6番の二つ以外では、すべて弥生土器などの遺物を確認できた。また、トレンチ・ナンバー4番では、磨石と敲石がほぼ同位置同レベルで検出することができた。

今回の調査では、遺跡の範囲確定等を目的として行ってきたが、調査の対象となっている丘陵地が南に向いていることや遺物が出土したこと、また丘陵地の裾野には、妻手川が流れていること等から考慮すると生活条件は整っていると考えられる。今回の確認調査では、検出することはできなかったが、住居跡などの遺構の存在の可能性は高い。

参考文献 「宮崎県神社誌」昭和63年9月30日 宮崎県神社庁

影平遺跡トレンチ土層断面図

No. 1

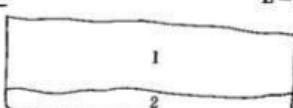
L = 37.7 m



- 1: 稲作土、7.5YR 4/3 棕色
2: 造物包含層、少し粘質がある。7.5YR
5/8 明褐色
3: 粘質土、7.5YR 5/4 黒い褐色

No. 5

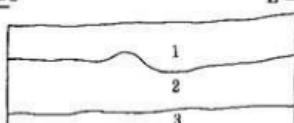
L = 40.0 m



- 1: 硬い粘質土 10YR 2/3 黒褐色
2: 1より硬い粘質土 10YR 5/8
黄褐色

No. 2

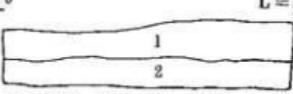
L = 37.9 m



- 1: 稲作土、7.5YR 4/3 棕色
2: 造物包含層、少し粘質がある。7.5YR
5/8 明褐色
3: 粘質土、7.5YR 5/4 黒い褐色

No. 6

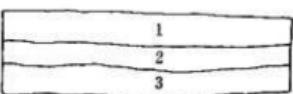
L = 38.3 m



- 1: 稲作土、炭化粒を含む。10YR 5/6
黄褐色
2: 硬い粘質土 10YR 6/8 明黄褐色

No. 7

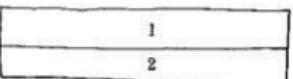
L = 36.47 m



- 1: 稲作土、10YR 5/6 黄褐色
2: 造物包含層、少し粘質がある。10YR
5/8 黄褐色
3: 少し粘質のある硬質土 10YR 7/8 黄褐色

No. 8

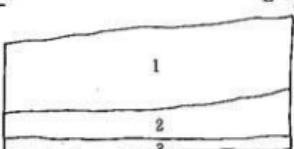
L = 34.05 m



- 1: 稲作土、10YR 4/6 棕色
2: 造物包含層、少し粘質がある。10YR
7/8 黄褐色

No. 4

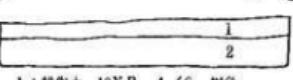
L = 39.6 m



- 1: 稲作土、7.5YR 4/6 棕色
2: 造物包含層、少し粘質がある。7.5YR
5/6 明褐色
3: 硬い粘質土、7.5YR 4/3 棕色

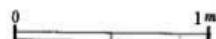
No. 9

L = 32.01 m



- 1: 稲作土、10YR 4/6 棕色
2: 造物包含層、少し粘質がある。10YR
7/8 黄褐色

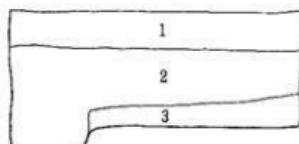
第9図



影平遺跡トレンチ土層断面図

No.10

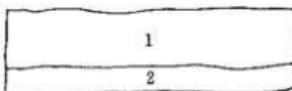
L = 36.07 m



- 1 : 耕作土。10YR 5/6 明褐色
2 : 1よりやや粘質がある。10YR 4/4 褐色
3 : 遺物包含層、少し粘質がある。10YR 5/8 明褐色

No.14

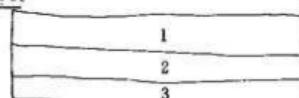
L = 40.2 m



- 1 : 10YR 4/6 褐色
2 : 10YR 6/8 明褐色

No.11

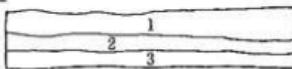
L = 34.15 m



- 1 : 耕作土。7.5YR 3/3 明褐色
2 : 1よりやや粘質がある。10YR 5/6 明褐色
3 : 遺物包含層、2より硬い粘質土。10YR 4/6 褐色

No.15

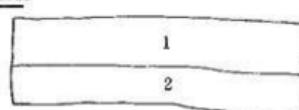
L = 40.2 m



- 1 : 10YR 3/4 暗褐色
2 : 10YR 4/4 褐色
3 : 遺物包含層。7.5YR 5/8 明褐色

No.12

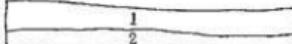
L = 31.71 m



- 1 : 耕作土。7.5YR 4/6 褐色
2 : 遺物包含層。1より硬い粘質土。
7.5YR 6/8 橙色

No.16

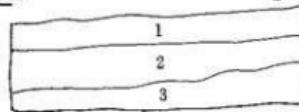
L = 39.6 m



- 1 : 7.5YR 4/6 褐色
2 : 粘質土。5YR 6/8 橙色

No.13

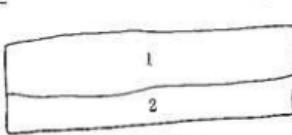
L = 39.9 m



- 1 : 耕作土。10YR 3/4 明褐色
2 : 3よりも弱い粘質土。10YR 5/8 黄褐色
3 : 粘質土。10YR 6/8 明褐色

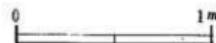
No.17

L = 40.0 m



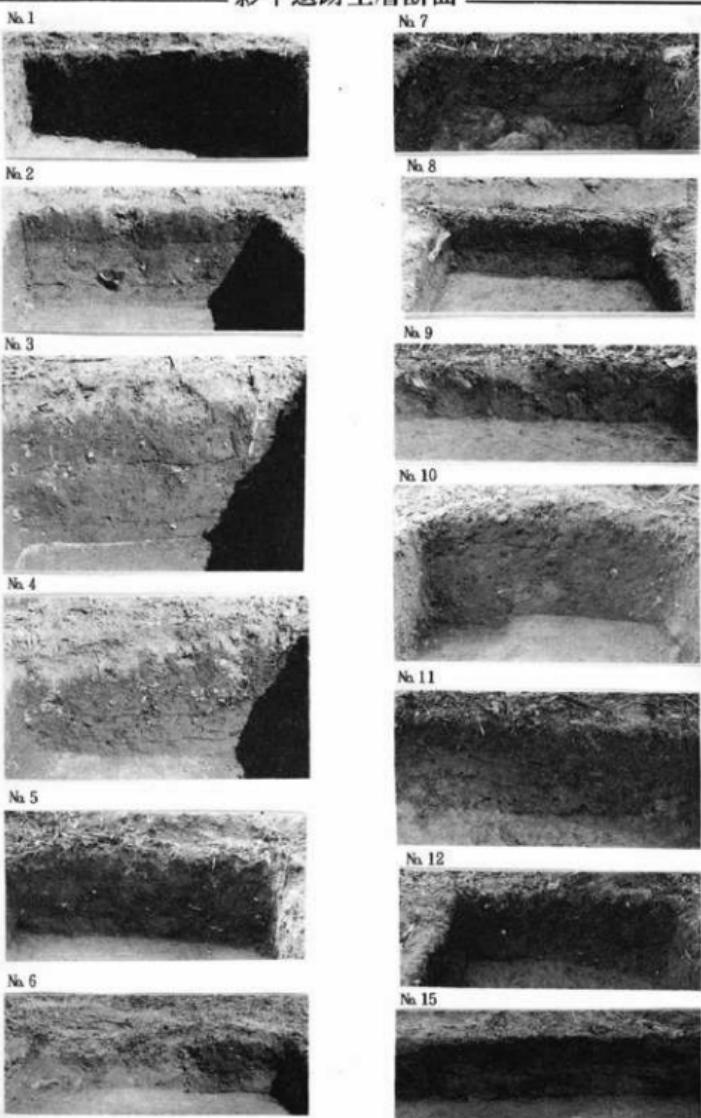
- 1 : 10YR 4/6 褐色
2 : 粘質土。7.5YR 4/6 褐色

第10図



影平遺跡土層断面

図版
5

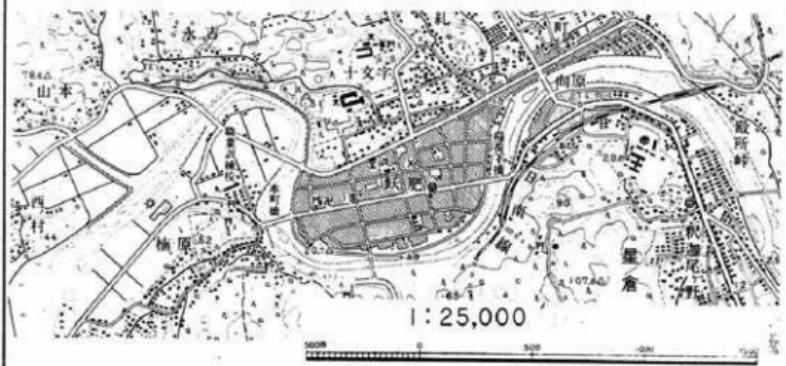


飫肥城下町遺跡

飫肥城下町遺跡全景

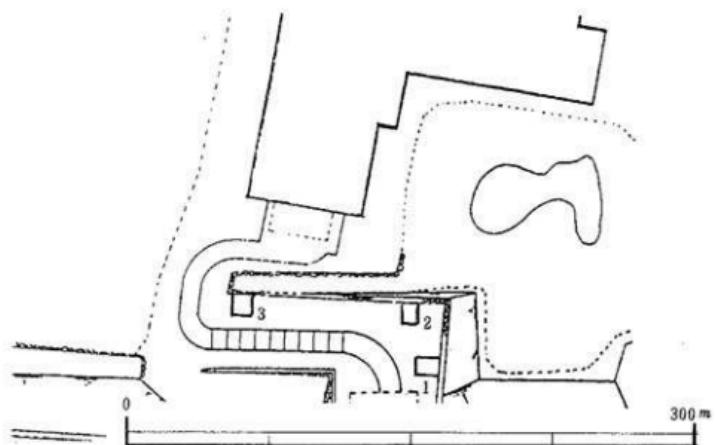
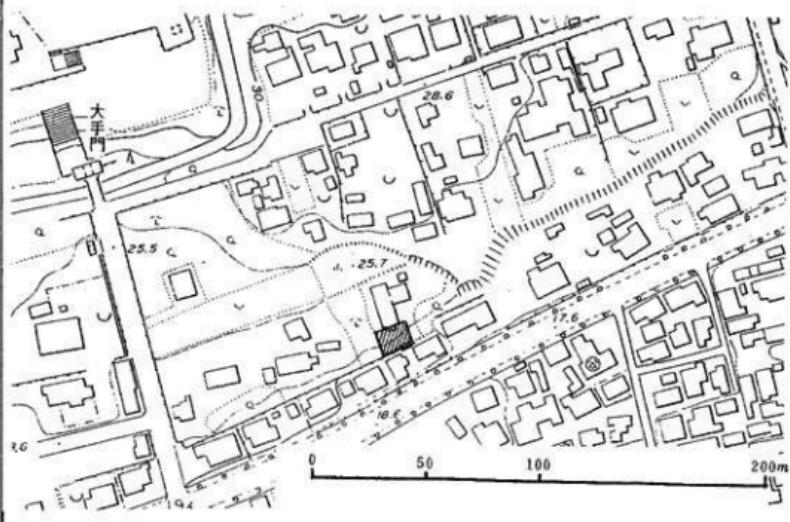


飫肥城下町遺跡位置図



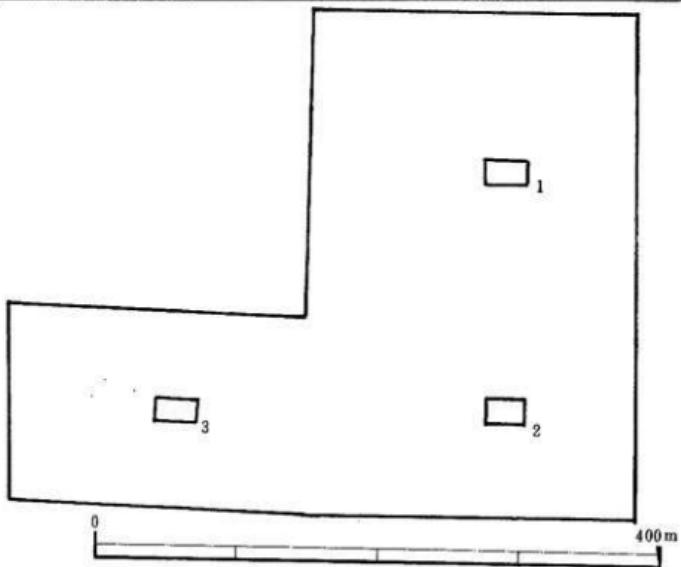
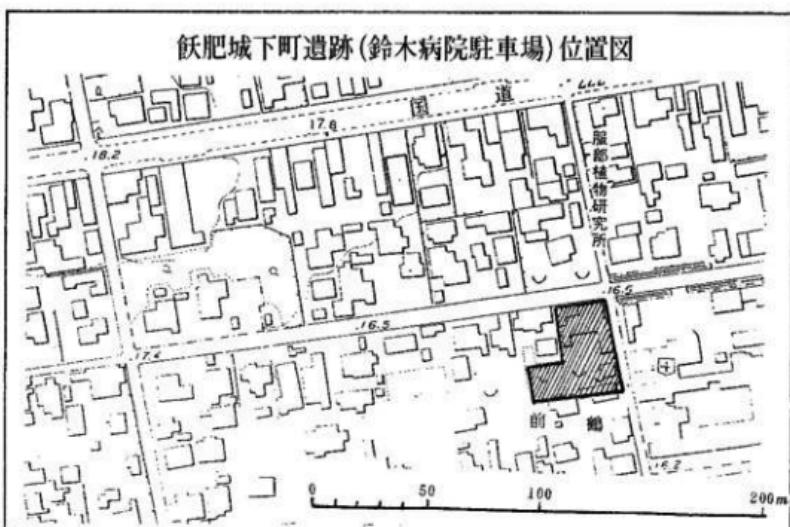
第11図

飫肥城下町遺跡(松田家石垣、石塙)位置図



第12図

飫肥城下町遺跡(鈴木病院駐車場)位置図



第13図

[位置と環境]

鯖城下町遺跡は、国選定重要伝統的建造物群保存地区を含む周知の埋蔵文化財包蔵地内である。今回調査の対象とした2地点のうち「松田家石垣及び石段の整備事業」に伴う調査対象地は、日南市大字楠原4233-4に位置し、重要伝統的建造物群保存地区内となっている。またもう一方の「鈴木病院の駐車場整備」に伴う調査対象地は、日南市大字楠原3908に位置し、同じく重要伝統的建造物群保存地区内である。鯖城下町遺跡の中では、前鶴通りに面しており近世の城下町の町割りによると下級武士が居住していた地域に属する。

[調査の経緯]

今回調査したのは、鯖城下町遺跡内に位置する2地点である。その内重要伝統的建造物群保存地区に位置する「松田家石垣及び石段」の調査については、国庫補助事業に伴う開発に伴うものである。

石垣と石段の整備事業に伴う調査であるが、石垣は、長年の風雪に耐えてきたが、近年その石垣にはらみ等が起き崩落の恐れもあるので、今回、石垣を積み直す工事に入ることになった。そこで、今回の調査では、石垣の創建当時の基礎部分の確認などを行うことになった。

石段については、もともと10段の石段が薬医門から屋敷内に通じていたが、その石段にコンクリートによってスロープがつけられており、原形を止めていなかった。そこで、石垣の積み直しとともに原形へ戻す工事をおこなうこととなった。調査では、石垣の基礎で2地点と石段の確認のために1ヶ所合計3ヶ所に1m×2mのトレンチを設定した。

もう一方の「鈴木病院の駐車場整備」に伴う調査対象地は、重要伝統的建造物群保存地区内に位置しており、前鶴通りに面する城下町の趣をよく残す一角に位置する。調査では、駐車場整備地内に1m×2mのトレンチを3ヶ所設定した。

[調査の結果]

「松田家石垣及び石段」の調査については、その内2ヶ所の石垣の面するトレンチにより石垣を検出することができ、創建時の基礎部分を確認することができた。また、遺物は、近世から近代までの陶器、磁器等を確認できた。

「鈴木病院の駐車場整備」に伴う調査対象地では、トレンチを3ヶ所開けていたが、その内2ヶ所（トレンチ・ナンバー2、3）については、以前産業廃棄物やがれき等の廃棄場所にしていたらしく、およそ1.5メートルほど掘り下げたが、廃棄物やがれき等しか検出することができなかった。もう1ヶ所については、層位の確認はしたが遺物、遺構とも検出することはできなかった。

松田家(石垣・石段整備地)、鈴木病院(駐車場整備地)



1



2



3



4



5



6

1～5：松田家(石垣・石段整備地)

6：鈴木病院(駐車場整備地)

和郷牧場開発予定地

和鄉牧場全景

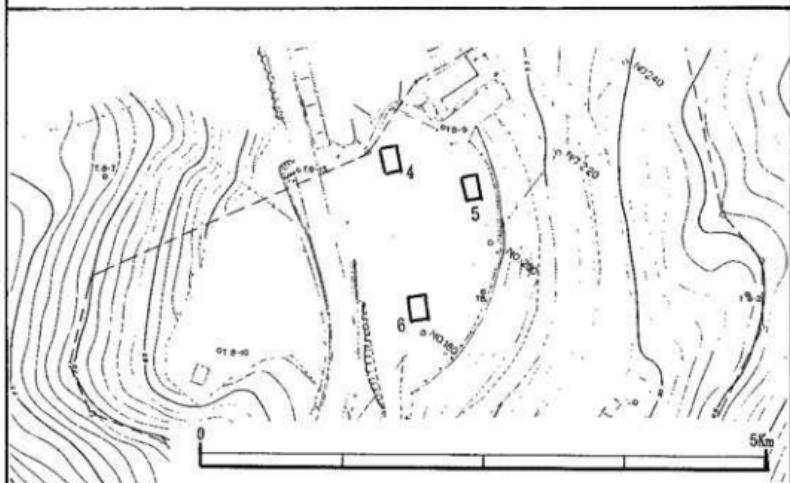
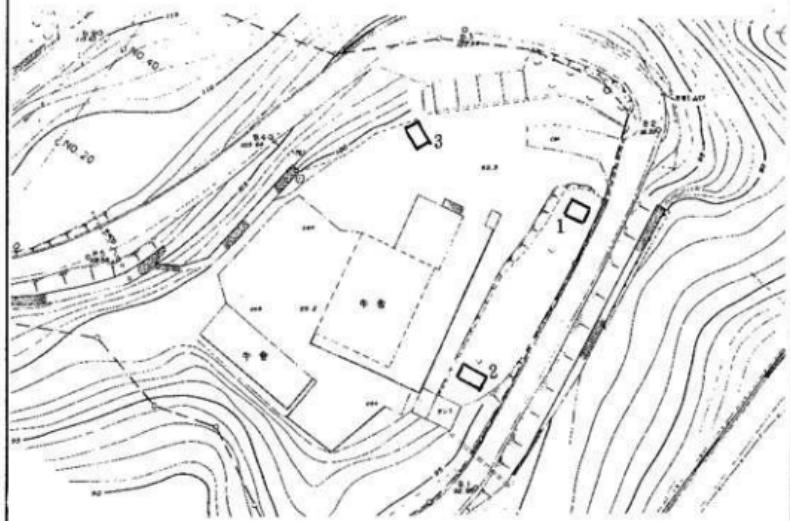


和郷牧場位置図



第14図

和郷牧場トレンチ位置図



第15図

[位置と環境]

和郷牧場は、日南市大字宮浦2618-1に位置し、日向灘を見下ろす丘陵地となっている。

[調査の経緯]

和郷牧場は、現在は牧場としては運営されていないが、県営畜産經營環境整備事業の開発が行われることとなった。開発予定のなる調査対象地は、大きく3ヶ所に分かれており、丘陵地の上部管理棟部分と丘陵地中断牛舎、家畜小屋等の施設がたてられている部分そして、丘陵地下段部分の駐車場の部分からなる。上部管理棟部分では、建物以外の開発予定地について、そのほとんどにおいて山肌が露出しており、この部分の確認調査は、行わなかった。他の2地点については、1m×2mのトレンチをそれぞれ3ヶ所ずつ設定していた。

[調査の結果]

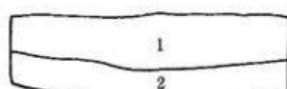
今回の調査では、それぞれの地点での3ヶ所のトレンチ、合計6ヶ所を調査したが、そのいずれのトレンチにおいても遺物、遺構とも確認することはできなかった。

和郷牧場土層断面図

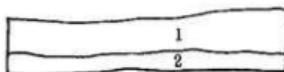
No. 1

L = 97.52m No. 4

L = 63.21m



1 : 10YR 2/1 黒色
2 : 10YR 4/4 褐色

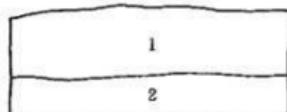


1 : 耕作土、7.5YR 4/6 棕色
2 : 粘質土 10YR 3/4 暗褐色

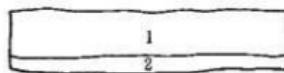
No. 2

L = 95.72m No. 5

L = 62.81m



1 : 砂層 10YR 4/4 棕色
2 : 粘質土 10YR 5/6 黄褐色

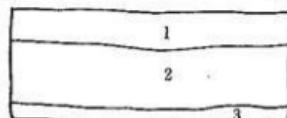


1 : 耕作土、7.5YR 4/6 棕色
2 : 粘質土 10YR 3/4 暗褐色

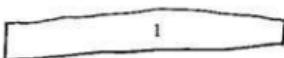
No. 3

L = 98.12m No. 6

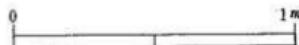
L = 62.41m



1 : 粘質土 10YR 5/1 暗灰色
2 : 粘質土 10YR 7/6 明黄褐色
3 : 岩盤層 10YR 6/1 暗灰色



1 : 粘質砂層 10YR 7/4 純い黄橙色



第 16 図

和鄉牧場土層斷面

No. 1



No. 4



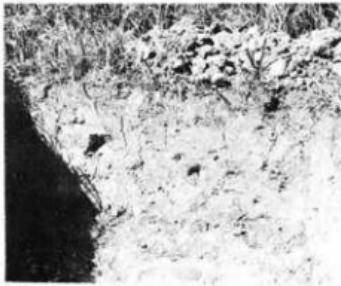
No. 2



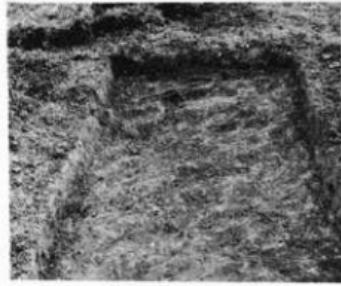
No. 5



No. 3



No. 6



日南市埋蔵文化財調査報告書 第4集

平成6年度 日南市内遺跡発掘調査概報

1995年3月

編集発行 日南市教育委員会
〒887 日南市中央通1丁目1番地1
電話 0987-31-1145

印 刷 (有)日南美術プリント社
日南市上平野町1丁目7の9
電話 0987-22-2889

